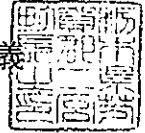




二建水第216号
平成20年10月20日

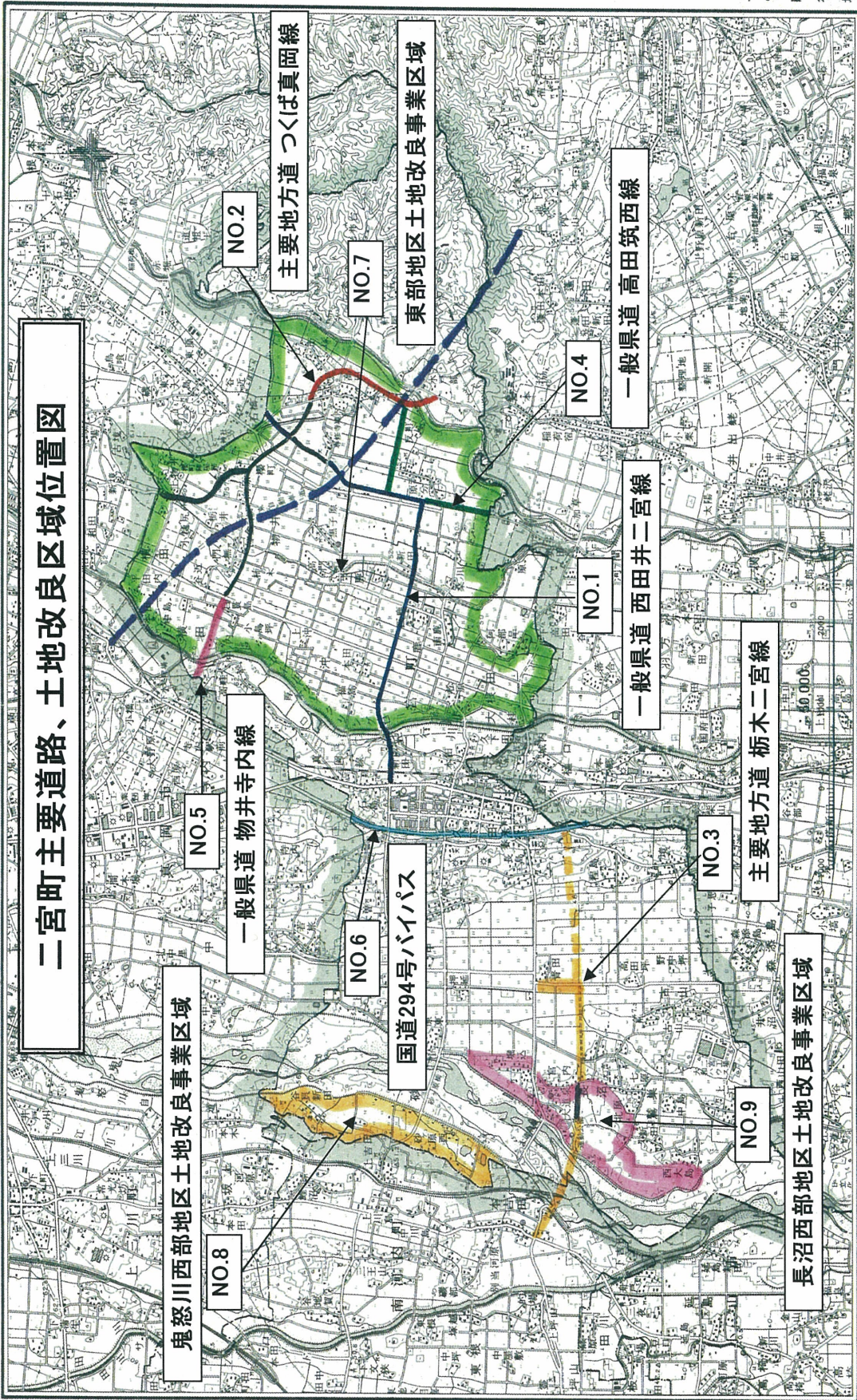
国土交通省道路局長 様

二宮町長 藤田 忠義



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号において依頼のありました件名について別紙のとおり回答いたしますのでよろしくお願いいたします。



二宮町主要道路、土地改良区域位置図

二宮町役場

この図は、建設省国土利用政策の承認を受けて作成されたものである。
（本図は、建設省国土利用政策の承認を受けて作成されたものである。）

今後の道路行政についての意見・提案

栃木県二宮町

〈改善をお願いしたい件〉

1. 道路整備には、市町村道から国道整備等、整備主体によってその整備水準が異なります。基本的には計画交通量等によって、整備幅員等がおおむね決定することとなっている現状にあります。
この様な中、私たちの町のように、町道として重要な道路でも、補助採択用件以下の道路整備も進める現状を考えますと、市町村道整備では、補助採択用件の引き下げをしていただき、賛成ではない、実情に適した道路整備が出来れば有り難いと考えます。
2. 道路整備に不可欠となる用地取得であります。何処でも苦慮していることとして、「未相統地」の用地取得があります。一筆の用地を取得するため多くの相続該当者の理解を得ることが必要となり、状況によっては遠方まで交渉に出向くことや、所在不明者の対応など、かなりの時間を要するケースがあります。目標とする供用開始や事業の早期効果発現等の観点から、もう少し簡素で早期に事務処理が可能となる、対応策の検討をお願いしたいと思います。

〈要望〉

本県は自動車の普及率や運転免許保有率が、全国的に見ても高い位置にあって、日々の生活を支える移動手段が「車」にほとんど依存している現状から、当町でも「安心して通行できる道路の整備」を強く求めたいと思います。道路整備に不要な所は無いと思っていますし、特に基幹道路である国道・県道の改良率向上が必要だと思っています。
なお、渋滞対策や危険箇所解消、これらも安心して通行できる道路整備に繋がると思いますが、公共交通網が手薄な当町では、道路整備は最も重要なインフラ整備だと考えています。

○現状 二宮町では、平成2年度から約1600ヘクタールの土地改良事業がスタートし、現在も整備を継続し、残り数年で面工事や道路(砂利敷き程度迄)・水路等が、総て完了の予定となっております。 その土地改良事業の区域内には、狭隘ですれ違いの出来ない主要地方道及び県道が5路線存在し、土地改良事業において、これらの基幹道路の整備構想が平成元年度に立案され、土地改良事業の進捗に併せ、道路用地の取得が開始されました。主要地方道や県道の基幹道路は、現在ほぼ用地取得が完了し、施行を待つ状態が続いています。基幹道路の整備が延び延びとなり、沿線の土地利用や道路利用者の多くが苦慮している実情にあります。 また、土地改良事業の完成が間近となり、新たに創設された区画道路総延長約150Kmの道路整備も、各地域から強く求められています。	○課題 主要地方道及び県道の早期整備は、栃木県を始め関係機関への要望活動を根気よく展開し、当町の実情を訴えていきたいと思えます(基幹系道路網は計画で停滞し、現道は土地改良事業によって撤去された部分が多く、基幹道路が機能していない)。 また、創設された区画道路は、可能な限り財源確保に努めると共に、栃木県の補助等を有効に導入し整備の促進を図りたいと考えます。 これらの実情から、一言で申し上げれば、課題は道路財源の確保となります。
---	--

最優先は何と言っても、基幹道路の早期完成を推進することです。次に当町の既存集落内における、幹線町道の道路改良を推進すること、これが今後の重点的取り組みと捉えています。

当町では久下田市街地以外の多くが田園地帯となっており、土地改良事業によってすれ違いが可能な道路網（砂利道として）は創設されましたが、既存集落にあっては、狹隘道路がまだ存在し、少なくとも緊急車両が円滑に通行できる、道路改良事業を推進していきたいと考えております。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項 〈地域活力の向上〉 先にも記載のとおり何と言っても、基幹道路の整備が重要だと考えています。基幹道路の構築・充実、沿線の発展に大きな効果をもたらす、商業・観光等あらゆる方面へのアクセス条件となります。	○代表事例 当町では、国道294号・408号の重複国道が、町の大きな動脈となっています。本年3月の北関東自動車道真岡ICの開通、更に本年12月20日には、真岡ICから桜川筑西IC間も開通が見込まれ、この国道が担う役割も大きくなってきています。この様な状況から、国道294号・408号の重複国道の「4車線化」を早急に進めていただきたいと思います。当町の南側である筑西市と北側の真岡市では、既に4車線の整備がなされ、当町区間がボトルネックの2車線の現状です。渋滞の解消・移動時間の短縮等から、早急に整備を進めていただきたいと思います。	○期待する効果や評価等 国道294号・408号の重複国道は、首都圏から茨城・栃木・福島県を結ぶ、重要な物流道路の機能を有し、沿線の工業団地や栃木県の観光を支える役割を担っています。また、本年12月20日には、東北自動車道から東側区間が全線供用となる、北関東自動車道の真岡ICへのアクセス道路としても、交通量の増加が見込まれている関係から、沿線工業団地の活性化に大きな期待が寄せられています。	○その他 災害の対応・高度医療機関への緊急アクセス・多様化する住民生活の利便性向上等あらゆる面で道路の担う役割は大きいと思います。整備コストの削減に取り組みながらも、道路整備は住民生活を支える根幹だと考えています。今後も道路整備が計画的に着実に推進されることを望みます。
--	---	---	---